

**東芝メディカルシステムズ
超音波診断装置「Xario 100」発売
～簡単操作で高画質～
(2013/11/13)**

東芝メディカルシステムズ(株)は、簡単で高画質な超音波診断装置「Xario™ 100(エクサリオ 100)」を開発し、11月20日からドイツ・デュッセルドルフで開催されるMedicalに初展示すると同時に全世界で営業活動を開始する。Xario 100はコンパクトなハイエンド装置として、日常の検査室のルーチン検査から検査室外での様々な目的で使用することが可能である。

開発の背景

超音波診断装置は、リアルタイムに検査画像が得られ、被ばくの心配が無いことから、腹部臓器や循環器、産婦人科、運動器などの広い臨床分野で、ルーチン検査や精密検査の目的で幅広く使われている。特に近年、治療方針の決定から治療時のイメージングガイド、その後の経過観察を一貫してフォローできることから、検査室はもとより外来や処置室、病棟などでの使用機会も増えており、小さな病変も見逃すことの無い高性能な装置を、院内各所へ手軽に持ち運べ、誰にでも簡単に操作できることへのニーズが高まっている。

同社はこうしたニーズにこたえるため、eXcellence & Advanced Routineの名を冠したXarioシリーズの最新版として、コンパクトなハイエンド装置・Xario200を今年5月に発売した。今回発売するXario 100は、そのXario 200のすぐれた基本性能を受け継ぎながら、より簡便な操作で日常検査を快適に実施できることを目指した。



Xario 100

＜Xario 100の主な特長＞

●さまざまなシーンで簡単に最適な画質を提供

Xario100は人間工学に基づいて操作パネルのボタンを使いやすく配置した。さらに検査スタイルに合わせて各ボタンの機能を自由にカスタマイズ可能で、さまざまなシーンで快適に使用することが可能である。

Bモード画質やスペクトラムドプラー波形をワンタッチで最適化するQuick Scanや、患者様の体形や検査部位に応じて多くのパラメーターをボタンひとつで最適化するQuick Startなどの機能により、簡単に最適の画質を得ることができる。

●取り回しのしやすいコンパクトボディ

Xario100は高性能でありながら、軽量・コンパクト。プリンタやビデオレコーダーを搭載したり、オプションプローブや心電ケーブルなど、必要な周辺機器やアクセサリを収納するバスケットを装着可能で、移動の際に便利な大型のグリップハンドルと大型の4輪キャスターを備えており、病院内を軽快に移動して検査を始めることができる。

消費電力は従来機種^(注1)と比較して約50%省電力化しており、よりいっそうの省エネルギーを実現している。

●高画質で診断をサポート

Xario100は、東芝独自の送受信回路・Twin Pulserを搭載し、状況に応じた最適な送信で鮮明な画像を提供する。境界や構造物の視認性を向上させるPrecision Imagingや、コントラスト分解能を高めるApliPure™、深部まで高い分解能を維持するDifferential THIなどのイメージング技術のほか、組織の硬さを映像化するElastographyなど、多彩な機能を搭載可能で、確かな診断をサポートする。

＜Xario 100の主な仕様＞

接続可能プローブ：セクタ，リニア，コンベックス，
体腔内，4D

視野深度：最大40cm

観察モニター：19インチLCD

電源定格：AC 100V±10% 最大800VA

外形寸法：473mm(W) x 1,287/1,401/1,516mm(H) x 785mm(D)

重量：70kg